

銀行業務検定試験成績結果 ▶ ▶ ▶ 第133回 ▶ ▶ ▶ 銀行業務検定試験成績発表

〔第133回〕銀行業務検定試験成績発表

相続アドバイザー3級が好成绩

去る3月6日(日)に実施いたしました第133回銀行業務検定試験の成績結果ができましたので、ご参考までに発表いたします。

財務3級

「財務3級」の成績結果は、〔表-1〕のとおりです。
応募者数21,328名中受験者は17,911名で、合格者は6,738名でした。合格率は37.62%、平均点は52.50点で、前回(2015年6月)に比べて、合格率は6.03ポイント上回り、平均点は3.26点上回りました。
最高点は100点で、浦谷温未さん(東京東信信用金庫)、安宅雅彦さん(第四銀行)、林沙也華さん(岐阜県信用農業協同組合連合会)、熊谷由美さん(福岡県信用農業協同組合連合会)、斎藤聡さん(個人申込)、非公表乙名さんの6名が個人最優秀賞を受賞されました。
正解率が30%以下となった問題は、〔問-19〕連結貸借対照表上の純資産の額の算出、〔問-28〕為替差益の額の算出、〔問-35〕総配分性向(総還元性向)の算出、〔問-36〕安全余裕率の算出、〔問-49〕直接法による営業活動によるキャッシュ・フローの額の算出の5問でした。
〔問-19〕は、示されている資料から連結貸借対照表上の純資産の額を算出する問題です。法人税等調整額を純資産とする誤りが多く見受けられました。
〔問-28〕は、決算日における為替差益の計上額を算出する問題です。「決算日」ではなく「決算日」の計上額であることに注意が必要です。
〔問-35〕は、企業による株主への利益還元の度合いを示す指標である総配分性向(総還元性向)に関する問題です。近年、配当金のみを割合を示す妥当性よりも、株主への利益配分を幅広く表す概念として経営目標に採用する企業が増えています。
〔問-36〕は、示されている資料から安全余裕率を算出する基本的な計算です。
〔問-49〕は、示されている資料から直接法によるキャッシュ・フロー計算書の「営業活動によるキャッシュ・フロー」を求めると、財務諸表の諸項目から実際の支出額や収入額を読み取る問題です。それぞれ実務的な視点からの出題ですので、基本を確実に身に付けて、どのような出題形式にも対応できるよう準備してください。

〔表-1〕 財務3級・業種別成績一覧表 (合格点は、60点以上。年齢・勤続年数は、受験者の平均値)

財務2級

「財務2級」の成績結果は、〔表-2〕のとおりです。
応募者数733名中受験者は6,078名で、合格者は1,354名でした。合格率は22.28%、平均点は42.46点で、前回と比較してほぼ同様の結果となっています。
最高点は97点で、本多洋一郎さん、東高廣さん(以上、個人申込)の2名が個人最優秀賞を受賞されました。
10題の問題のうち平均点が最も低かったものは〔問題-10〕貸倒引当金繰入限度額の計算で、2.19点でした。また、平均点が9点台の問題は、〔問題-6〕遺産未分割の場合の取扱いの1題で、3.27点でした。
今回、択一問題の解答状況は全般的に良好でした。計算問題各問の答案作成においては、最近の改正点についての知識が求められるものも含まれていもの、税額計算の基本的な計算のしみを理解している方には得点しやすい内容でしたので、比較的得点をとれる方と多く得点できない方に大きく二分されていました。
なお、〔問題-2〕〔問題11〕(択一部分)につきまして、(2)はこのような取決めがいたる限りでしたが、(1)も出題の設定上、合計種目金額の表記に不備があったため、受験者全員の方を正解扱いとさせていただきます。
本種目の受験にあたっては、財務3級の受験の際に学習した各税法分野における計算の方法や特例等の各規定の基本知識を再確認しておくことが有効です。財務3級試験の受験の際に学習した知識が整理されれば記述問題および計算問題においても高い得点が望めますので、問題解説集による学習に加え、参考書等により体系的に学習しておくことをお勧めいたします。

〔表-2〕 財務2級・業種別成績一覧表 (合格点は、60点以上。年齢・勤続年数は、受験者の平均値)

財務3級

「財務3級」の成績結果は、〔表-3〕のとおりです。
応募者数20,446名中受験者は17,118名で、合格者は4,639名でした。合格率は37.62%、平均点は53.02点で、前回(2015年10月)の成績と比較すると合格率・平均点とも低くなりましたが、3年クラスの標準的な合格率・平均点(合格率35%程度、平均点52点程度)よりも1割以上2割程度標準より高い成績といえます。
最高点は100点で、小林祐里奈さん(三菱UFJトラストビジネス)、伊藤善さん(蒲田信用金庫)、網倉亘基さん(池田泉州銀行)、小川由由さん(個人申込)の4名が個人最優秀賞を受賞されました。
正解率が30%以下となった問題は、〔所得税〕分野では、〔問-5〕配当所得の金額の計算、〔問-14〕一時所得の課税と計算の2問、(相続税・贈与税)分野では、〔問-23〕相続税の総計算上の方法と相続分、〔問-30〕生前贈与の扱い、〔問-37〕贈与の相続時精算課税制度の3問、〔法人税〕および〔その他の税金〕分野ではなく、計5問でした。
本種目は所得税分野が20問40のウエイトがあり、この分野での得点が合否に大きく影響します。出題内容は基本事項が中心となっており、全般的には難度の高いものでもありませんでしたが、従来から出題されている内容であっても過去問では問われていない論点、近年の改正事項に関する知識が必要となるもの、については正確の判定を誤る受験者が多くなるようです。
本種目の受験にあたっては、問題解説集を学習するだけでなく、各税法分野を体系的に学習し、各規定の内容とともに税額計算の仕組みをしっかり学習したほうが理解を深めることができます。関連講座による学習や基本書を用いての学習とすることを勧めいたします。

〔表-3〕 財務3級・業種別成績一覧表 (合格点は、60点以上。年齢・勤続年数は、受験者の平均値)

財務4級

「財務4級」の成績結果は、〔表-4〕のとおりです。
応募者数2,901名中受験者は2,697名で、合格者は1,775名でした。合格率は65.81%、平均点は65.27点で、前回と比較すると、合格率・平均点ともに前回より低くなりました。4級試験としては標準的な合格率・平均点(合格率60%程度・平均点62点程度)よりやや高めとなっています。
最高点は98点で、永島政和さん(山陰合同銀行)、荒木一志さん(福岡信用金庫)の2名が個人最優秀賞を受賞されました。
正解率が30%以下となった問題は、〔所得税〕分野の〔問-17〕総合課税される譲渡所得の計算等、〔問-26〕所得税の税額控除の2問で、(税の常識)・(相続税・贈与税)・(法人税)および〔その他の税金〕分野ではありませんでした。
本種目の受験にあたって学習されたことは、実務上も押さえておくべき知識です。今後3級、2級を受験される際には、本種目の受験の際に学習した内容が基礎となりますので、今回習得した内容を踏まえ、参考書等により各税法分野の計算の流れを再確認するとともに体系的に知識を深めてください。
「財務4級」の成績結果は、〔表-4〕のとおりです。
応募者数2,901名中受験者は2,697名で、合格者は1,775名でした。合格率は65.81%、平均点は65.27点で、前回と比較すると、合格率・平均点ともに前回より低くなりました。4級試験としては標準的な合格率・平均点(合格率60%程度・平均点62点程度)よりやや高めとなっています。
最高点は98点で、永島政和さん(山陰合同銀行)、荒木一志さん(福岡信用金庫)の2名が個人最優秀賞を受賞されました。
正解率が30%以下となった問題は、〔所得税〕分野の〔問-17〕総合課税される譲渡所得の計算等、〔問-26〕所得税の税額控除の2問で、(税の常識)・(相続税・贈与税)・(法人税)および〔その他の税金〕分野ではありませんでした。
本種目の受験にあたって学習されたことは、実務上も押さえておくべき知識です。今後3級、2級を受験される際には、本種目の受験の際に学習した内容が基礎となりますので、今回習得した内容を踏まえ、参考書等により各税法分野の計算の流れを再確認するとともに体系的に知識を深めてください。

〔表-4〕 財務4級・業種別成績一覧表 (合格点は、60点以上。年齢・勤続年数は、受験者の平均値)

外国為替2級

「外国為替2級」の成績結果は、〔表-5〕のとおりです。
応募者数3,114名中受験者は991名で、合格者は232名でした。合格率は23.41%、平均点は50.01点で、合格率は前回を若干上回りました。
最高点は83点で、中谷竜章さん(北國銀行)、仁井井佳佳さん(三菱東京UFJ銀行)の2名が個人最優秀賞を受賞されました。
問題別にみると、〔問題-2〕信用状付輸出と為替取引における「3/B」直送の与信判断、〔問題-9〕ネットイン、〔問題-10〕取引先企業の海外進出、の3題が良好な結果でした。これらの問題については、基本的な知識を学習した受験者にとって、解きやすい問題であったためと考えられます。
一方、〔問題-1〕輸出信用状および条件変更の通知と取扱い、〔問題-4〕信用状付輸入為替の接受、〔問題-5〕D/P条件の期限付手形、〔問題-6〕スタンバイ信用状、の4題は低得点結果となりました。このうち、〔問題-4〕、〔問題-5〕、〔問題-6〕は(輸入為替)の分野の問題でした。
「外国為替2級」の成績結果は、〔表-5〕のとおりです。
応募者数3,114名中受験者は991名で、合格者は232名でした。合格率は23.41%、平均点は50.01点で、合格率は前回を若干上回りました。
最高点は83点で、中谷竜章さん(北國銀行)、仁井井佳佳さん(三菱東京UFJ銀行)の2名が個人最優秀賞を受賞されました。
問題別にみると、〔問題-2〕信用状付輸出と為替取引における「3/B」直送の与信判断、〔問題-9〕ネットイン、〔問題-10〕取引先企業の海外進出、の3題が良好な結果でした。これらの問題については、基本的な知識を学習した受験者にとって、解きやすい問題であったためと考えられます。
一方、〔問題-1〕輸出信用状および条件変更の通知と取扱い、〔問題-4〕信用状付輸入為替の接受、〔問題-5〕D/P条件の期限付手形、〔問題-6〕スタンバイ信用状、の4題は低得点結果となりました。このうち、〔問題-4〕、〔問題-5〕、〔問題-6〕は(輸入為替)の分野の問題でした。
特定の分野に苦手意識をもたずに、出題範囲を万遍なく学習し、合格を目指して各問題バランスよく確実に得点することが望まれます。

〔表-5〕 外国為替2級・業種別成績一覧表 (合格点は、60点以上。年齢・勤続年数は、受験者の平均値)

外国為替3級

「外国為替3級」の成績結果は、〔表-6〕のとおりです。
応募者数236名中受験者は5,250名で、合格者は1,915名でした。合格率は36.48%、平均点は53.84点で、ともに前回(2015年10月)を下回りました。
最高点は92点で、太田寛子さん(個人申込)が個人最優秀賞を受賞されました。
正解率が30%以下となった問題は、〔問-3〕国外送金等調査書発行制度、〔問-17〕信用状し輸出荷替手形取引における当事者の関係、〔問-19〕信用状の追加条件等、〔問-28〕信用状発行銀行が受理できない保険書類、〔問-37〕仕向送金、〔問-43〕科目ごとの平均点をみるなど、(基本問題)と(輸入為替)が低くなっています。どちらの科目についても、基本的な知識を身に付けて備りない知識習得をすることが高得点につながり、その後の実務にも役立つこととなります。

〔表-6〕 外国為替3級・業種別成績一覧表 (合格点は、60点以上。年齢・勤続年数は、受験者の平均値)

経営支援アドバイザー2級

「経営支援アドバイザー2級」の成績結果は、〔表-7〕のとおりです。
応募者数2,017名中受験者は1,610名で、合格者は523名でした。合格率は32.48%、平均点は52.88点で、ともに前回を上回りました。
最高点は86点で、小林亮太さん(青木信用金庫)が個人最優秀賞を受賞されました。
(基本知識(択一式))においては、正解率が30%以下となった問題は、〔問-2〕再生対象企業の見極め、〔問-12〕費用の分類・分帳、〔問-22〕創業・新事業(ベンチャー)支援の3問でした。択一式の平均点は、二次数28点台で推移しています。高得点を目指すには、択一式で確実に得点を重ねることがポイントです。
一方、(技能・応用(記述式))においては、設問中「点数第2位以下となる問題はなく、バランスよく得点がよかったです。特に気になる問題は、数値の記入ミスです。設問中「点数第2位以下となる問題はなく、千円未満は百点で四捨五入」等の文言を加えています。正しく処理できずに入られている解答が見受けられました。設問文に従い正確な記入をしてください。

〔表-7〕 経営支援2級・業種別成績一覧表 (合格点は、60点以上。年齢・勤続年数は、受験者の平均値)

融資管理3級

「融資管理3級」の成績結果は、〔表-8〕のとおりです。
応募者数4,736名中受験者は4,017名で、合格者は1,353名でした。合格率は33.68%、平均点は52.41点で、ともに前回を上回りました。
最高点は94点で、河村広広さん(エム・ユー・フロンティア(債権回収)が個人最優秀賞を受賞されました。
正解率が30%以下となった問題は、(基本知識)〔問-19〕指名債権譲渡の対抗要件、〔問-25〕売却基準価額と一括売却の2問、(技能・応用)は、〔問-35〕抵当権設定後の土地の権利の変動、〔問-37〕抵当権の元本の確定、〔問-41〕相殺の可否、〔問-47〕債権差押えの手続と効力、〔問-50〕担保権消滅請求の5問の計7問でした。このほか、30%前半半の問題が3問ありました。
正解率が30%以下となった問題は、(基本知識)〔問-19〕指名債権譲渡の対抗要件、〔問-25〕売却基準価額と一括売却の2問、(技能・応用)は、〔問-35〕抵当権設定後の土地の権利の変動、〔問-37〕抵当権の元本の確定、〔問-41〕相殺の可否、〔問-47〕債権差押えの手続と効力、〔問-50〕担保権消滅請求の5問の計7問でした。このほか、30%前半半の問題が3問ありました。
特に〔問-41〕を行うためには、銀行取引に関する事例や判例等の理解が求められるテーマです。

〔表-8〕 融資管理3級・業種別成績一覧表 (合格点は、60点以上。年齢・勤続年数は、受験者の平均値)

年金アドバイザー2級

「年金アドバイザー2級」の成績結果は、〔表-9〕のとおりです。
応募者数2,523名中受験者は1,903名で、合格者は429名でした。合格率は22.54%、平均点は41.55点で、ともに前回を下回りました。
最高点は91点で、三重野典子さん(個人申込)が個人最優秀賞を受賞されました。
そのほか気になった問題は、〔問-3〕老齢厚生年金の年金額等と失業給付(基本手当)の1題でした。
〔問題-3〕は、報酬比例部分の計算、65歳からの老齢厚生年金の年金額計算および基本手当の総支給額の計算などを問うものですが、特に難度の高い論点はありませんでした。事例の年金加入歴が「私学共済と厚生年金保険の2つの制度である」ところが目新し感に感じられたかもしれません。
厚生年金保険の期間のみを考慮して解答すれば正解にたどり着けると思いますが、応用力を身につけることが必要です。そのほか気になった問題は、〔問-4〕在職老齢年金と高齢者雇用継続給付との関係、在職老齢年金の年金額計算において、事例の高齢者が180万円なので標準賞与の上限額150万円を計算すべきところ、ほとんどの方が180万円を計算していたことです。3級試験の結果もから、このうち多くの方が「標準賞与」として計算していること、このように知識をお持ちであると推測します。
必要なときに必要な知識を取り出せる引き出しを作るような学習も大切です。

〔表-9〕 年金2級・業種別成績一覧表 (合格点は、60点以上。年齢・勤続年数は、受験者の平均値)

年金アドバイザー3級

「年金アドバイザー3級」の成績結果は、〔表-10〕のとおりです。
応募者数12,593名中受験者は10,476名で、合格者は3,252名でした。合格率は31.04%、平均点は47.89点で、ともに前回(2015年10月)を下回りました。
最高点は100点で、砂川康夫さん(城北信用金庫)、伊藤修登さん、服部正明さん、三橋信子さん、下村桃朗さん、百枝有記さん(以上、個人申込)の6名が個人最優秀賞を受賞されました。
正解率が30%以下となった問題は、〔問-18〕雇用保険の失業給付(基本手当)と老齢厚生年金の併給調整、〔問-24〕遺族厚生年金の中高等学校加算、〔問-38〕高齢者雇用継続給付と在職老齢年金の併給調整、〔問-45〕雇用保険の失業給付(基本手当)および年金との併給調整、〔問-50〕所得税の源泉徴収の5問でした。
〔問-18〕は、平均的に高い正解率となるテーマであり、今回もこれまでに出題された選択枝からの出題であったこと、意外な結果となりました。
〔問-24〕、〔問-38〕は、やや低得点正解率となるテーマであり、今回もこれまでに出題された選択枝からの出題となりました。
〔問-45〕は、2014年3月試験以来2年ぶりとなるテーマであったことから、対策が不十分な受験者の結果が多かったのではないかと推測します。
〔問-50〕は、類似テーマを出題したのが2014年3月試験であったことから、上記〔問-48〕と同様なことが推測されます。
合格率は30%前半半と、ほぼ標準的な結果でしたが、正解率が30%以下の問題が少なく、全体的にはバランスよく学習されています。

〔表-10〕 年金3級・業種別成績一覧表 (合格点は、60点以上。年齢・勤続年数は、受験者の平均値)

年金アドバイザー4級

「年金アドバイザー4級」の成績結果は、〔表-11〕のとおりです。
応募者数1,918名中受験者は1,704名で、合格者は1,007名でした。合格率は59.10%、平均点は64.63点で、ともに前回を若干下回りました。
最高点は100点で、川口美紀子さん(松本ハイランド農業協同組合)、村井美さん(愛知県中央信用組合)、荒木佐子さん(福岡信用金庫)、黄川田昭広さん、田中順子さん、関口貴弘さん、高橋貴史さん、大進亮さん(以上、個人申込)の8名が個人最優秀賞を受賞されました。
正解率が30%以下となった問題は、〔問-22〕年金の併給調整、〔問-36〕特別支給の老齢厚生年金の支給開始年齢、〔問-45〕遺族厚生年金の3問でした。
〔問-22〕は、以前は「老齢基礎年金と給されない年金」というテーマで出題しており、その頃は高い正解率となる傾向でした。しかし、前回から被用者年金の一元化に鑑み、出題する年金の種類を増やしたことから、難化したテーマです。
〔問-36〕は、低い正解率の回と正解率50%程度のある年金のテーマであり、今回は低い正解率の回となりました。
〔問-45〕は、以前は「遺族厚生年金としての給付要件」というテーマで出題しており、その頃は高い正解率となる傾向がありました。しかし、2014年から「遺族厚生年金として、幅広く出題するよう」にため、やや難化したテーマです。
上記のように、やや出題した範囲が広がりましたが、4級試験として標準的な結果となりました。

〔表-11〕 年金4級・業種別成績一覧表 (合格点は、60点以上。年齢・勤続年数は、受験者の平均値)

投資信託2級

「投資信託2級」の成績結果は、〔表-12〕のとおりです。
応募者数782名中受験者は552名で、合格者は139名でした。合格率は25.18%、平均点は45.02点で、合格率・平均点ともに前回を上回りました。
最高点は85点で、亀井一輝さん(しまなみ信用金庫)が個人最優秀賞を受賞されました。
問題別にみると平均点が3点以下となった問題は、〔問-7〕MMFに関する問題の1題でした。
本種目は、MMFの運用の安定化を図るために、投資信託協会が定めている運用ルールの理解を問うものです。今一度、確実な理解が望まれます。
また、反対に、平均点が5点を超えた問題は、〔問題-6〕NISA・ジュニアNISA、〔問題-8〕追加型株式投資信託の換金等、〔問題-9〕税制の基本に関する問題の3題でした。

〔表-12〕 投資信託2級・業種別成績一覧表 (合格点は、60点以上。年齢・勤続年数は、受験者の平均値)

投資信託3級

「投資信託3級」の成績結果は、〔表-13〕のとおりです。
応募者数4,492名中受験者は3,797名で、合格者は1,223名でした。合格率は32.21%、平均点は52.86点で、合格率・平均点ともに前回を下回りました。
最高点は97点で、恵利夏樹さん(個人申込)が個人最優秀賞を受賞されました。
正解率が30%以下となった問題は、〔問-3〕投資法人、〔問-8〕J-REIT、〔問-9〕ファミリーファンド方式、〔問-19〕運用報告書、〔問-20〕株式投資信託の適時開示、〔問-22〕特定資産、〔問-25〕金融商品販売法、〔問-32〕解約式の受取金額など、これら40問題は、繰り返し出題される問題のうち、前回の5問を除く、5問増加しました。
一方、問題は、繰り返し出題される問題のうち、過去問題等と併せて確認しておくべき問題がいくつかあります。
正解率が30%を超えた問題は〔問-13〕ファンドの基本価額、〔問-23〕投資信託販売上の禁止行為、〔問-36〕通貨選択型ファンドの運用提案、〔問-48〕クレーム対応の4問と、前回に比べて2問減りました。

〔表-13〕 投資信託3級・業種別成績一覧表 (合格点は、60点以上。年齢・勤続年数は、受験者の平均値)

相続アドバイザー3級

「相続アドバイザー3級」の成績結果は、〔表-14〕のとおりです。
応募者数9,966名中受験者は8,646名で、合格者は4,914名でした。合格率は56.84%、平均点は61.21点で、前回(2015年10月)に比べて、合格率は4.48ポイント上回り、平均点は1.51点上回りました。
最高点は100点で、大山尚子さん(日本郵便 関東支店)、河野徳哉さん(ゆうちょ銀行 福岡エリア本部)の2名が個人最優秀賞を受賞されました。
正解率が30%以下となった問題は、(相続の基礎知識)分野において〔問-16〕未成年者控除・障害者控除・配偶者の税額軽減、〔問-17〕生前贈与と対策の特例の2問、(相続と金融実務)分野において〔問-35〕遺産の名義変更手続きの1問、(その他周辺知識)分野において〔問-36〕遺族年金の請求・処分の1問の計4問でした。
なお、〔問-16〕につきまして、(4)は「相続した財産」を1問の4問のうち、1問が誤りでしたが、(2)も「被相続人の戸籍」の結果であったため、受験者全員の方を正解扱いとさせていただきます。
部分としては、前回同様の好成绩でした。2017年3月実施の相続アドバイザー2級に向け、よりしっかりと知識の足を固めたいうえでステップアップしていただけるよう期待いたします。

〔表-14〕 相続3級・業種別成績一覧表 (合格点は、60点以上。年齢・勤続年数は、受験者の平均値)